

(学校番号209) 令和4年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大原中学校】

4月28日		
目標・策		
知識・技能	ICT等を活用しながら、R3年度全国学力・学習状況調査及びR元年度市学習状況調査の自校結果以上にする。	⇒ 全教科で伝え合う活動を取り入れた授業やタブレットを活用した授業を展開し、基本的技能を習得する。スタディサプリ等を活用しながら、基礎学力の向上を図る。
思考・判断・表現	伝え合う授業を工夫しながら、R3年度全国学力・学習状況調査及びR元年度市学習状況調査の自校結果以上にする。	⇒ 全教科でICTの活用等を考え、伝え合い方を工夫した授業を実践する。身に着けた力を活用・応用する直接体験の場を増やし、更なる伸長を図る。
主体的に学習に取り組む態度	R4年度全国学力・学習状況調査及びさいたま市学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分から取り組んでいましたか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合を昨年度以上にする。	⇒ 見通しをもって学習に取り組み、学習の振り返りを通して、学習前後の自己のよりよい変容を味わえる授業の工夫。

9月2日		
中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
知識・技能	変更なし	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし

8月31日	
全国学力・学習状況調査結果・分析	
<p>国語科においては、依然全国平均よりも上回っている。「話すこと・聞くこと」の中のスピーチの内容を直す短答式の設問等においては、聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することにまだ伸びる余地がある。伝え合う活動を通じて、相手の考えや思いが伝わるように、表現する力を高める。</p> <p>数学科においては、依然全国平均よりも上回っている。「データの活用」の領域が全国平均よりも高いもののまだ伸びる余地がある。ヒストグラムの特徴に基づき、選んだ理由を説明することについてもまだ伸びる余地がある。伝え合う活動を通じて、ICT等を活用しながら生徒の学力の向上に今後も努める。</p> <p>理科においては、全ての設問で全国平均を上回ることができた。領域別に見ても全ての分野が全国平均を上回ることができた。特に「生命」を柱とする領域が他の領域と比較し、全国平均よりも高い結果を得られた。</p> <p>学習で得た知識を日常の物理現象と結び付けて解答する設問に対して、他の領域と比べまだ伸びる余地がある。実験のまとめなどで、ICT等を活用して伝え合い方を工夫した授業を実践していく。</p> <p>生徒質問紙においては「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」や「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の肯定的な回答の割合が特に全国平均よりも上回った。より一層、子ども主体の学びとなるよう授業改善に努める。</p>	

2月〇〇日	
さいたま市学習状況調査結果・分析	
中1	
中2	
中3	

2月〇〇日	
成果指標に対する達成状況	評価(※)
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

3月〇〇日	
次年度への課題と改善策	
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

※評価
 A 8割以上(達成) C 4割以上(あと一歩)
 B 6割以上(概ね達成) D 4割未満(不十分)